

通商条約締結
150周年記念

スイス使節団 が見た幕末の日本

カスパー・ブレンワルド日記を中心に

平成26年7月16日(水)～10月19日(日)

●開館時間:9:30AM～5:00PM(入館は4:30まで) ●休館日:月曜日(7月21日、9月15日、10月13日は開館)および7月22日、9月16日、10月14日 ●入館料:一般200円、小中学生100円 ●主催:横浜開港資料館 ●共催:横浜市教育委員会・DKSHジャパン株式会社 ●協力:ヌーシャテル民族誌博物館・東京大学史料編纂所・横浜史料調査研究会 ●後援:朝日新聞横浜総局・神奈川新聞社・毎日新聞横浜支局・読売新聞東京本社横浜支局・NHK横浜放送局・TBS



横浜開港資料館
YOKOHAMA ARCHIVES OF HISTORY

◆旧英国総領事館 ◆東急東横線・みなとみらい線日本大通り駅下車
◆〒231-0021 横浜市中区日本大通3
◆TEL.045-201-2100 ◆ホームページ <http://www.kaikou.city.yokohama.jp/>

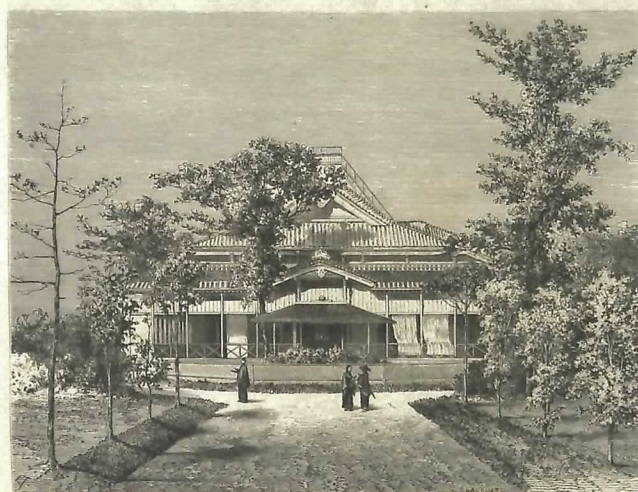
日本とスイスが通商条約を締結したのは文久3年12月29日(1864年2月6日)で、スイスは日本と通商条約を結んだ8番目の国になった。当時のスイスは、工業製品を輸出するとともに、日本の産物を日本商人と取引したいと考えていた。しかし、スイス使節団が到着した時の日本は攘夷の嵐が吹き荒れ、条約を結ぶことは容易なことではなかった。このため、使節団はねばり強く交渉を繰り返した。

展示では、使節団の一員として来日したカスパー・ブレンワルドが記した日記を題材に、条約締結交渉の様子や日本の政治情勢を紹介する。現在、日記はスイスのDKSH社(DKアーカイブ)が所蔵しているが、約50年ぶりに日本で公開される。

- I スイス使節団の到着
- II オランダとスイス
- III 日本の政治情勢
- IV スイス使節団が見た日本
- V 使節団の贈り物と展覧会
- VI 通商条約の締結とスイス系商社の活躍
- VII ヌーシャテル民族誌博物館に残された写真
- VIII アンペール著『幕末日本図絵』から
- IX DKSHジャパン株式会社の歴史



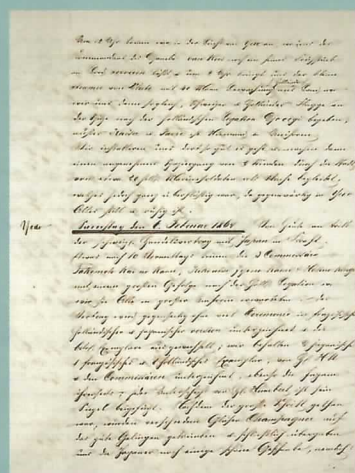
日本に立出する前のスイス使節団
DKアーカイブ蔵
椅子に座っているのが首席全権
のエーメ・アンペール。右から2人
目が日記の著者であるブレンワルドである。



RÉSIDENCE DU CONSUL GÉNÉRAL DES PAYS-BAS, A YOKOHAMA.

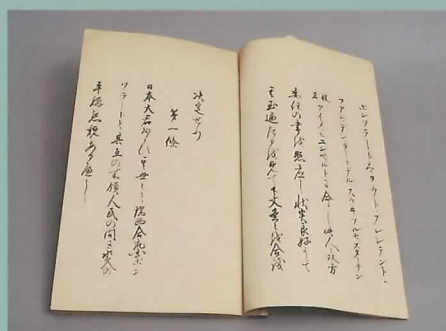
横浜のオランダ総領事館

アンペール著『幕末日本図絵』挿絵 当館蔵
スイス使節団は既に日本と通商条約を結んでいたオランダの協力を得て幕府との交渉に臨んだ。横浜ではオランダ総領事館を活動拠点にした。



カスパー・ブレンワルドの日記

DKアーカイブ蔵
ブレンワルドはスイス使節団の一員。日記には幕府との交渉経過がドイツ語で詳しく記されている。ここでは通商条約が結ばれた1864年2月6日の日記を掲載した。



日瑞修好通商条約写本

当館蔵 稲生典太郎文庫
近代日本外交史の研究者であった稲生典太郎氏が収集したもの。稲生氏はこの写本が条約締結当時、老中の手元にあったと推測した。



四国連合艦隊下関砲撃事件の光景 F.ベアト撮影 当館蔵

スイス使節団が来日した頃、日本では攘夷事件が相次いで起こっていた。文久3年(1863)5月には、長州藩が関門海峡を航行する外国船に砲撃を加えた。これに対し、イギリス・フランス・アメリカ・オランダは元治元年(1864)8月5日に連合艦隊(四国艦隊)を下関に派遣し、両者の間で激しい戦闘がおこなわれた。

❖表面のスイス国旗が掲揚されている写真は、ヌーシャテル民族誌博物館(スイス)所蔵、東京大学史料編纂所画像提供

案内図



- みなとみらい線「日本大通り」駅3番出口から徒歩2分
- JR「関内」駅(南口)、市営地下鉄「関内」駅下車徒歩15分
- JR「桜木町」駅から市営バス「日本大通り駅県庁前」・「大横橋」下車徒歩1分
- 周遊バスあかいくつ「日本大通り」(港の見える丘公園行き)下車徒歩3分

次回展示予告

ジャパノロジストの系譜(仮称)

2014年10月22日(水)～2015年1月25日(日)(予定)